



文献入手の可能性を広げよう —病院図書館における相互貸借—

春日井 泉江

I. はじめに

相互貸借のマニュアルはいくつかあるが、最も基本とされているのは日本医学図書館協会発行の「相互利用マニュアル」¹⁾である。現在の最新版は2005年発行の第5版で、近畿病院図書室協議会の加盟機関には発行時に配布されている。基本的な申込・受付の流れについては上記マニュアルを参考にさせていただき、本稿では、病院図書館での相互貸借を例に、文献入手までにつまずきやすいポイントについて説明する。

以前に会誌「病院図書館」に掲載されたシリーズ「相互貸借のための便利ノート」で、実務上のワンポイントアドバイスを紹介している。利用者からの依頼受付および申込前作業については⑬略語²⁾、⑭複写申込書³⁾を、相手先への複写申込については⑨申込のルールとマナー⁴⁾、⑫FAXでの複写申込様式⁵⁾を、上記マニュアルと合わせて参考にされたい。

II. 書誌事項を確認する

利用者から受け付けた書誌事項があいまいで、そのままでは申し込めないことがある。図書館員が調査し、できる限り確認してから申込書を作成する。

1. データベースで探す

PubMed*の「Single Citation Matcher」、医中誌 Web*の「書誌確認」、NDL-OPAC*の「雑誌

記事索引の検索／申込み」等の機能が便利である。データベースにより収録対象が異なるので使い分ける。図書の場合は、NACSIS Webcat*、Webcat Plus*の「一致検索」、NDL-OPACの「一般資料の検索(拡張)／申込み」等を利用する。項目のうちわかっている情報を入力し検索する。もしヒットしなければ、情報の一部が誤っている可能性を考慮し、入力項目を減らしたり予想したりして検索し直す。

2. ホームページで探す

検索データベースに収録されていない雑誌・記事は、雑誌のホームページで探す。全文閲覧は有料でも、目次・抄録までは無料で見られることが多い。

PubMed からは、「Journals Database」で雑誌を探し、検索結果の「NLM ID」をクリックし、NLM Catalogの画面(図1)で「Electronic Links」(★)があれば、クリックすると雑誌のホームページが開く。雑誌により画面は異なる



□1: Author(s): British Medical Association.; British Soc
Title Abbreviation: Gut
Title(s): Gut.
Publication Date(s): v. 1- Mar. 1960-
Frequency: Monthly
Publisher: London, British Medical Assn.
Description: v. ill., ports.
Language: English
ISSN: 0017-5749 (Print)
1458-3288 (Electronic)
★ Electronic Links: <http://gut.bmjournals.com/>
Fully Indexed In: Index Medicus v6n4, Aug. 1965-
MEDLINE v6n4 Aug 1965

図1. リンク例



図 2. 雑誌ホームページ例

が、SEARCH で Author、Title 等の項目を入力して検索するか、ARCHIVE (図 2) で発行年・巻号からたどる方法が一般的である。

発行元のホームページで、目次等を公開していることがある。医学中央雑誌刊行会の「収載誌検索」、NACSIS Webcat、Webcat Plus 等で出版者を確認し、インターネットの検索エンジン (Yahoo! JAPAN* など) でそのホームページを探す。あれば、目的とする雑誌の情報が掲載されていないか探す。

直接、検索エンジン (Google* など) で探すと見つかることがある。雑誌のフルタイトルや論題等のフレーズをダブルコーテーション (") で囲んで検索すると、目的とする情報がヒットしやすい (図 3)。手軽だが、前述した方法と比べて情報の信頼性は劣るので、留意されたい。



図 3. 検索例

Ⅲ. インターネットで入手する

情報入手の手段として、インターネットは必須のものとなっている。有料の電子ジャーナル、全文データベース等を契約していなくても、利用できるものは多い。

1. 電子ジャーナル

(1) 利用できる雑誌の確認

外国雑誌や国内の学会雑誌の一部で、無料の電子ジャーナルを提供している。冊子体 with と呼ばれる冊子体購読者向けのサービスや、数ヶ月～数年経過したバックナンバーを無料公開しているもの、すべてを公開しているものなど、各誌・出版社により利用できる範囲は異なる。図書館員が 1 誌ずつ確認し、必要なら登録作業を行わなければならない煩雑である。しかし、同じ内容でも印刷物ではなく電子媒体で入手できること、未着、欠号、製本時の代替品として利用できるなど、有用性は高い。自館の所蔵誌だけでも一通り確認しておきたい。

HighWire Press*、Free Medical Journals*、PubMed Central*、J-STAGE* など、無料電子ジャーナルのリストがある。過去に依頼された雑誌が含まれていないか、チェックしておくとういだろう。

(2) 検索結果からのリンク

PubMed、医中誌 Web、JDream II* などの検索結果から、電子ジャーナルへのリンクが張られている。契約者でなければ利用できないものも多いが、試しにどこまで開けるかクリックしてみよう。図 4 は無料電子ジャーナルへのリンクアイコンの例である。

検索結果からのリンクは完全ではない⁶⁾。リンクが無い=存在しない、と思いつまらずに、雑誌のホームページからも探してみる。



図 4. アイコン例

(3) 電子媒体のみの文献

PubMed の検索結果で、ページ数の代わりに [Epub ahead of print] と表記されているのを見たことはないだろうか。これは、冊子体の発行前の情報で印刷物は存在しないが、電子ジャーナルでなら入手できる。

冊子体には目次・抄録しか載っておらず、全

文はインターネットでしか見られない文献もある。PubMed の画面 (図5) では判別しづらいが、Electronic の略で e ページであることが多いので、申込の際には留意したい。

一般的に相互貸借では、電子媒体での提供は不可、プリントアウトの送付は可、とされている^{7, 8)}。しかし、電子ジャーナルを所蔵していても相互貸借に提供している機関はまだ少なく、依頼先を探すのが難しい。電子ジャーナルでしか入手できない文献なら受けてもらえる場合もあるので、問い合わせてみよう。

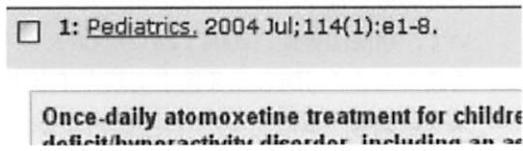


図5. e ページ例

2. 報告書・ガイドライン

(1) 科研費報告書

厚生労働科学研究成果データベース*で、厚生労働科学研究費補助金等の研究報告書を検索・ダウンロードできる。すべて収録されているわけではないが、平成9年度以降のものであれば、相互貸借を申し込む前に確認しておこう。

(2) 診療ガイドライン等

学会で作成した診療ガイドライン、報告書などを、その学会のホームページで公開していることがある。Minds*、東邦大学医学メディアセンター*の「診療ガイドライン」など、診療ガイドラインのリストもある。無料公開されていないか、相互貸借を申し込む前に確認しておこう。

3. 看護文献

日本看護協会*の会員は、会員ダイレクトに登録すれば、無料で JDream II を利用できる⁷⁾。文献検索だけでなく、医学・薬学予稿集全文データベースに収録されている抄録集の全文を入手できる。図書館員は利用できず、会員が自ら行わなければならないが、看護師等の利用者には登録を勧めたい。

IV. どこへ申し込むか

相互貸借は、自館が所属しているネットワーク (近畿病院図書室協議会など) や地区の機関へ申し込むのが望ましいが、それだけでは、利用者の求めに応えるのに不十分である。自助努力を怠らず、的確な申込を心がけるとともに、必要とあれば入手先をネットワーク外へと広げたい。

1. 発行元へ

病院年報・病院医学雑誌等は、発行元へ申し込むのが原則である。特にネットワーク内の機関であれば、優先的に依頼したい。目録で所蔵確認できなかった場合でも、発行元なら複写依頼に応じてくれることが多い。ネットワーク外の機関であっても、諦めずに問い合わせてみよう。

2. 医学系以外の図書館へ

利用者から依頼される文献は、医学分野だけとは限らない。NACSIS Webcat 等で検索すると、医学部・歯学部の図書館では見当たらず、薬学部、看護学部、または、ほかの学部 (教育学部、体育学部、工学部など) の図書館で所蔵していることがある。「相互利用マニュアル」¹⁾ に沿った申込であれば、ほかの図書館でも通用することが多い。機会があれば一度、病院図書館からの依頼を受けてもらえるか問い合わせてみよう。

3. 公共図書館へ

公共図書館で、厚生労働白書、国民衛生の動向といった統計・年鑑・白書類や、医学関連分野の図書を所蔵していることがある。現物で直接確認したい場合など、近隣の公共図書館で利用できれば便利である。図書館のホームページで蔵書検索できることが多いので、試しに探してみよう。

V. おわりに

病院図書館では、文献入手においてもスピードと的確さが求められる。さまざまな形で情報が発信される今、自館で何ができるかを考え、

いざというときに使いこなせるように事前準備をしておくことが大切である。図書館員の工夫と努力で、病院図書館の可能性はさらに広がるだろう。

参考文献

- 1) 日本医学図書館協会相互利用マニュアル検討委員会編. 相互利用マニュアル. 第5版. 東京: 日本医学図書館協会; 2005.
- 2) 春日井泉江: 相互貸借のための便利ノート 13 略語. 病院図書館. 2003 ; 23 (2) : 74-5.
- 3) 春日井泉江: 相互貸借のための便利ノート 14 複写申込書. 病院図書館. 2003 ; 23 (4) : 186-7.
- 4) 春日井泉江: 相互貸借のための便利ノート 9 申込のルールとマナー. 病院図書館. 2001 ; 21 (1) : 29-31.
- 5) 春日井泉江: 相互貸借のための便利ノート 12 FAX での複写申込様式. 病院図書館. 2002 ; 22 (4) : 198-200.
- 6) 国立国会図書館. テーマ別調べ案内 無料電子雑誌論文の見つけ方. [引用 2006-10-01].
http://www.ndl.go.jp/jp/data/theme/theme_honbun_400134.html
- 7) 宇野彰男, 伊藤茂樹: 電子ジャーナルの相互貸借利用 アンケート結果に見るその問題点. 医学図書館. 2004 ; 51 (2) : 147-51.
- 8) 宇野彰男: 電子ジャーナルと相互貸借について. 病院図書館. 2004 ; 24 (2) : 55-8.
- 9) 看護のための JDream II 検索実践ガイド編集委員会編. 看護のための JDream II 検索実践ガイド. 東京: 科学技術振興機構; 2006.

*本文中で紹介したサイトのURL

- * PubMed <http://www.pubmed.gov>
- * 医学中央雑誌刊行会 <http://www.jamas.or.jp/>
- * NDL-OPAC <http://opac.ndl.go.jp/index.html>
- * NACSIS Webcat <http://webcat.nii.ac.jp/>
- * Webcat Plus <http://webcatplus.nii.ac.jp/>
- * Yahoo! JAPAN <http://www.yahoo.co.jp/>
- * Google <http://www.google.co.jp/>
- * HighWire Press <http://highwire.stanford.edu/>
- * Free Medical Journals <http://www.freemedicaljournals.com/>
- * PubMed Central <http://www.pubmedcentral.nih.gov/>
- * J-STAGE <http://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>
- * JDream II <http://pr.jst.go.jp/jdream2/>
- * 厚生労働科学研究成果データベース <http://mhlw-grants.niph.go.jp/>
- * Minds <http://minds.jcqhc.or.jp/to/index.aspx>
- * 東邦大学医学メディアセンター「診療ガイドライン」
<http://www.mnc.toho-u.ac.jp/mmc/guideline/>
- * 日本看護協会「JNA-会員ダイレクト」 <http://www.nurse.or.jp/kaiin.html>

本文中の表出順
URLは2006年10月1日現在